

## 2019 JUA/AUA Academic Exchange Program 参加報告

鑪野 秀一 (鹿児島大)

私は2019年度のJUA/AUA Academic Exchange Programで、ニューヨークのMount Sinai Hospitalでの研修とシカゴで開催されたAUA meetingに参加させていただきました。

Mount Sinai HospitalのChairmanは、ロボット支援前立腺全摘除術(RARP)のエキスパートであるProf. Ashutosh Tewariです。手術件数は年間8,000件以上で、ロボット手術は1,000件以上行われているHigh volume centerです。泌尿器科のロボットはXiが2台フル稼働している状態で、RARPの手術時間は約2時間、午前中に3件おこなわれることもありました。私が研修している期間にも、多くの国の泌尿器科医が手術見学に来ていました。

宿泊施設は病院から徒歩5分にあるシェアハウス(個室あり、キッチンとバスルームは共用)でした。人気テレビ番組「テラスハウス」を想像していましたが、現実とは異なりました(男性のみ)。

今回の研修で私が最も興味を持って勉強させていたのは、Tewari先生の神経温存の手術手技でした。手術行程における解剖学的構造の認識、判断の速さ、鉗子の使い方など多くの事を勉強させていただきました。今年で60歳になられるそうですが、筋力トレーニングで見事に鍛えられた体で、パワフルに仕事に取り組む姿勢が強く印象に残りました。また、固定された手術スタッフ

のチームワーク、特に助手の動きが素晴らしく、感心しました。

手術見学以外には、毎週土曜日の午前中におこなわれるWebカンファレンス(Coffee with the chair)にも参加させていただきました。海外の研究者や統計学者も参加しており、基礎研究から臨床研究まで、現在進行中の多数の研究についてのディスカッションは大変興味深いものばかりでした。

また、今回のプログラムのスポンサーであるNeoTract社の協力で、本邦では未承認(2019年7月現在)であるUroLiftの手術手技についてもRobert Valenzuela先生のオフィスで多くの症例を見学させていただきました。局所麻酔で日帰り手術が可能なこの治療法は、日本においても今後普及していく可能性があると感じました。

毎週日曜日はフリーでしたので、観光も楽しむことができました。美術館巡り、ヤンキースの試合(田中投手先発、勝利)、セントラルパークでサイクリングを楽しむことができました。

この交流プログラムに参加できたおかげで、本当に貴重な知識や経験を得ることができたと感じています。

最後に、この場をお借りしてJUA/AUA両学会およびスポンサーであるNeotract社の関係者の皆様に、心より感謝を申し上げます。



写真1 Prof. Tewari と



写真2 Dr. Valenzuela と